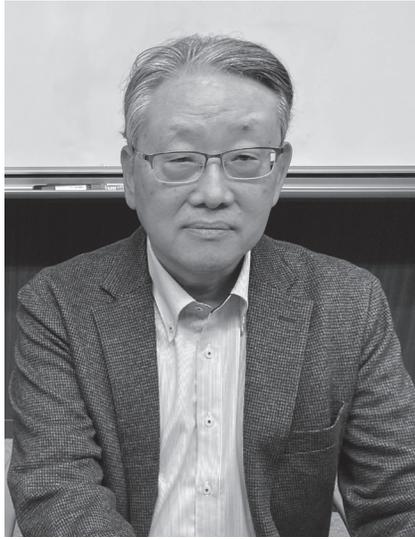


テレワークの普及で従来のファイアウォールが通用しなくなった!!

一步先をいくソリューションで 深刻なサイバー攻撃から日本企業を守る!!

国内の数多くの大手企業にシステムの最適化に関するソリューションやサイバーセキュリティに関するソリューションを提供する(株)アイ・アイ・エム(東京都中央区)。
同社デジタルビジネスソリューション部の武田光男氏と田口学氏に同社の歩みや現在の取り組みについて聞いてみた。



武田光男

たけだ・みつお

株式会社アイ・アイ・エム 戦略ビジネス統括部
デジタルビジネスソリューション部



田口学

たぐち・まなぶ

株式会社アイ・アイ・エム 戦略ビジネス統括部
デジタルビジネスソリューション部

アメリカで得たノウハウから 最適化ソリューションを確立

——まずは御社が提供しているソリューションについてご紹介いただけますか。

武田光男・アイ・アイ・エム戦略ビジネス統括部デジタルビジネスソリューション部 当社は大きく分けるとふたつのソリューションを提供しています。ひとつ目はコンピュータシステムの最適化に関するものです。とくに昨今はネットワークを介したサービスのレスポンス(応答時間)がはやくないと、顧客はなれがすすんでしまう傾向があるので、このニーズが非常に高くなっています。ウェブサイトの場合でも、以前は8秒以内にレスポンスがないと別のページにいつてしまふといわれていましたが、もはや1、2秒以内にレスポンスしなければならぬような感じですよ。最適化に関するソリューション

——それはいつ頃から提供しはじめたのですか。

武田 はじめてこの分野に乗り出したのは今から30年以上前のことです。当時はATMにキャッシュカードを入れてからお金が出てくるまでの時間を各銀行が競い合っていた時代で、そのカギを握っていたのはIBMのメインフレームでした。そこで、当社はその最適化をはかるためのノウハウを提供しはじめたのです。

——実にニッチな分野からスタートしたのですね。

武田 当社の創業者が、アメリカのIIMというセミナー会社で実施していた最適化に関するセミナーに着目し、当社を立ち上げる前にそのセミナーを日本に持ち込み、銀行向けに展開したのがはじまりでした。その後、創業者がみずから「ES/1N EOMFシリーズ」という最適化ソフトを開発したのです。

——そのソフトの特徴はどういったものだったのでしょうか。

田口学・アイ・アイ・エム戦略ビジネス統括部デジタルビジネスソリューション部 メインフレームのデータを分析し、最適化のための改善策を提示してくれるソフトで、アットという間に銀行や大手製造業などの間で話題になりました。そこで、創業者はアメリカのIIMの承諾を得て、日本でも同様の名を冠した会社を立ち上げ、ソフトの販売に乗り出したのです。ちなみに、本家のIIMはだいぶ前になくなってしまいましたが、当社は2017年にセイコーソリューションズ(株)(セイコーホールディングスグループ)の傘下に入り、以降も引きつづきIIMという社名で従来のビジネスを展開しています。

——当時はハードの全盛期だったわけですが、御社はいち早くソフトウェアに注目していた

のですね。

武田 そうです。以来、当社はソフトウェアを中心に、最適化に関するさまざまなソリューションを展開しつづけています。

攻撃の多様化とともに進化したセキュリティソリューション

——もうひとつのソリューションはどのようなものなのでしょうか。

武田 ふたつ目のソリューションはサイバーセキュリティに関するものです。最適化のソリューションを通して、大手企業のクライアントと長年にわたって取り引きをつづけているうちに、パソコンやシステムをいかに安心・安全に使うかといった課題に直面するようになり、この分野に乗り出すことになったのです。

——いつ頃からそのようなニーズが高まってきたのでしょうか。
田口 20数年前からウイルスによる被害や情報漏洩などが相つぐようになり、自然とニーズも高まってきました。それまでは一部の専門家だけしかパソコンやネットワークに触れていなかったのが減多に問題が生じることはなかったのですが、専門知識のない社員もパソコンを所有し、当たり前のようにネットワークに接続するようになったことで、

問題が多発するようになったのです。

——具体的にはどのようなソリューションを提案したのですか。
武田 最初に取り扱ったのは、パソコンの操作履歴を管理する「Lanscope Cat(ランスコープキャット)」というソフト

でした。大阪のMO TEXという会社が開発元ですが、このソフトが有していたパソコン上の操作を記録できる機能に目を付け、その会社の創業者に「このソフトをセキュリティ対策の一環として販売したほうがいいのでは」と持ち掛けたのです。その結果、このソフトはセキュリティソリューション分野のロングセラー商品となり、現在も当社の主力商品のひとつになっています。

——非常に先見性の高い取り組みですね。
武田 しかし、その後もサイバー攻撃は進化をつづけ、今やそれだけではまったく太刀打ちできなくなっています。とくにマルウェアなどのウイルスの進化は深刻で、それにともない、当社は世界中から最新のセキュリティソフトを発掘し、日本のクライアントに届けてきました。そのなかで当社と同じようにセキュリティシステムを取り扱っている(株)ブロード(東京都千代田区)とも連携し、同社が見出

したソフトなども積極的に取り扱うようになっていったのです。

さらに進化を遂げつつあるコロナ禍以降のサイバー攻撃

——コロナ禍にあつては、どのようなセキュリティソリューションが注目されていますか。

武田 テレワークの普及を機に、従来のファイアウォール(ネットワークへの侵入を防ぐための仕組み)が通用しなくなったことから、あらためてIDをきちんと守るという方法が注目されています。具体的にはIDの所有者や権限を明確にし、所有者以外はそのIDを使用できなくするようなソリューションが人気を集めており、弊社からも提供をしています。

——外部からのサイバー攻撃についてはどのようなソリューションを提供していますか。
田口 ひとつのソフトですべてのサイバー攻撃に対応することはできないので、いくつかのソフトを組み合わせることをオススメしています。なお、弊社ではお客さまの現状を伺い、最適な組み合わせを案内しています。

——最近のサイバー攻撃の特徴などはどうでしょうか。
武田 メールにマルウェアやランサムウェアを添付してくるケースが依然として多いほか、社長

などになりすまして経理部門に送金の指示などをメールするようなケースも増えています。ただ、こうした攻撃に関してはフランスのフィルタリングソフトが徹底的に対応しているのので、それらを適宜提案するようにしています。とくに最近では、マイクロソフトの「Microsoft 365」の

メーラー(メールの送受信に使用するソフト)が狙われるケースが多発しているのので、そこに特化したセキュリティソリューションを取り扱っています。

——大手企業に関してはサイバーセキュリティに関する意識が徐々に高まっているように思いますが、中小企業についてはまだまだといった感じがします。そのあたりについてはどうでしょうか。
武田 私たちもそのあたりに危機感を覚えており、今後、ブロードと一緒にサイバーセキュリティに関する啓発活動を展開していきたいと考えています。とくに最近ではIoTやオペレーショナルテクノロジー(運用・制御技術)に対する攻撃が増えてきているので、そのあたりの啓発にも注力していきたいと思

っています。日本の中小企業のためにもぜひそれらの活動に尽力ください。本誌としても積極的に情報発信をしていきたいと思



もう無駄な時間と費用は「0」にしましょう

hp HP Sure Click Enterprise

powered by **Br Bromium**

おかげさまで Bromium は HP Sure Click Enterprise に進化しました

エンドポイントのサイバー対策に関する費用や専門家は、もう必要ありません。100%* 防御し、レポートします。是非ブロードにお問い合わせください。

*2013年以降、Bromiumは推計20億以上のMicroVMが実行されましたが、侵害報告件数はゼロです。(Bromium社調べ)

詳細は [BROAD Security Square] で … <https://bs-square.jp/columbus>

株式会社ブロード 〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスビル永田町7F
TEL: 03-6205-7463 (代表)

